

(四倉地区まちづくり検討会)
令和5年度第3回4KuLabo③ワーキンググループ会議
(商店街賑わいづくり検討WG)
要 旨

■ 日 時

令和5年12月26日(火) 18:30~20:00

■ 場 所

四倉公民館 講義室・会議室(2)

■ 会議の流れ

- 1 開会
- 2 挨拶
 - ・都市計画課長
- 3 議事
 - (1) 前回のおさらい
 - チャレンジを応援する支援制度
 - 四倉地区の魅力について
 - まちなか賑わいづくりに関するこれまでの意見とりまとめ
 - まちなかエリアの「ありたい姿」の検討
 - ハード・ソフトの取組みに関する講話
 - (2) まちなかエリアにおける取組みの検討ワークショップ
 - まちなかエリアの賑わいづくりのゴールのイメージは？
 - ターゲット、目的は？(誰に対してアクション？)
 - やりたいこと・することは何？
- 4 その他(情報共有)
 - タクシーを活用した域内交通確保実証事業について
 - 検討状況のお知らせとアイデア募集について
- 5 閉会



■ 意見交換の概要(要旨) ○: 関係団体委員 ⇒: 事務局・行政委員 ●講師
(説明: 前回のおさらいについて)

- ご意見なし

(ワークショップの進め方の説明)

⇒ 事務局から、ワークショップの大きな流れ(賑わいづくりのゴールやターゲットの共通化・目線合わせを行った後、具体の取組みの検討を行うこと)について説明を行いました。

- まちづくりパートナーズ代表の阿部代表から、具体の取組みの検討の前の目線合わせとして、以下のお話を頂きました。
 - ・ まちなかエリアの賑わいづくりのゴールについて、人口増の時代ではない中では、量で賑わいをつくるのは難しい状況と言えます。
 - ・ 私からの提案としては、まずは、地域の方々、住んでいる方、商売されている方

が「楽しんでいること」「このまち、おもしろいな・元気があるな」と思っていること」を目指してはどうかと考えます。

- ・ そうすると、自ずと、外からも目がつけられて、人が来ることになります。
- ・ そして、一番大切なことは、皆さんを含め、取組んでいる人が「楽しんで企画を考える」「楽しんで運営している」「参加者の一人として楽しんでいる」というような事業が考えられるとよいと思います。
- ・ 楽しんで「満足感」「幸福感」が芽生えてくるような事業が出来たときに、必然と人が集まるまちになると思います。

(10 分間時間をとって、各自、アイデアを検討した後、意見交換を行いました)

まちづくり団体関係者様

- 空き店舗などを活用していく方策は必要な取組みだとは思いますが、やはり、四倉のまちに人を呼ぶなら、人間的にも商品的にも魅力的なお店に来てもらう必要があると感じました。
- そうした場合、「商工会や市民会議などが、本物の人を四倉に呼んでくる」「お店をつくる際などに行政が支援する、また地域が協力する」というようなシステムづくりをして進んでいかないと、継続的に魅力的なまちにはならないかなと感じました。

まちづくり団体関係者様

- 那須塩原の黒磯を訪れ、ショウゾウカフェや交流センター「くるる」などを視察してきました。黒磯は、今は人気のスポットになっていますが、実際には、自発的に誰かがやりたくて始めて、少しずつ、ポツンポツンとパン屋さんやチーズ屋さんが出来て、人が集まってきています。
- 四ツ倉駅の裏（西側）の工場跡地の活用を検討している中で、まちなかエリアの取組みを決めていくのは、難しいと感じています。

まちづくり団体関係者様

- 賑わいのゴールは、黒磯のように、魅力的な店舗がまちの中にポツンポツンと何店舗かあって、気づいたら道の駅（海の方）まで歩いていた、というイメージかなと思います。

まちづくり団体関係者様

- ポイントがない中で（事業の姿が明確ではない中で）、何かやろうとしても、なかなか投資は難しいですね。
- 「駅裏にあれが出来たから、まちなかでこれをやろう」というように、自発的に始まらないと、行政や我々が「ああしましょう」「こうしましょう」と言っても厳しい面があると思います。

⇒ 将来をイメージ（想像）しながら進めていくことは必要ではないでしょうか。

- 前回会議では、商店会の方から、「将来を見通せない」といった厳し発言もありました。やはり、工場跡地の開発が見えて、「あれをしようか」「これをしようか」となると思います。我々だけで「ああしましょう」というのは、ちょっと難しく感じます。
- 黒磯に視察に行きましたが、まばらではありますが魅力的なお店が、新しく建てるのではなく、既存の建物を生かして、黒磯らしさを残して点在していました。そして、行政の施設「みるる」「くるる」もありました。四倉についても、四倉らしさを生かして、まちづくを進めていくのがよいと感じています。
- 黒磯のショウゾウカフェも、このままではマズいという省三さんの熱い想いや行動があって、人が集まってきたと感じています。こういった人の力がまちをつくって来たということを、今後のまちづくりの参考としたいと考えています。

施設利用団体関係者様

- 工場跡地における整備の完了までには7、8年かかると伺いました。それまでの期間、時間はまだありますので、我々だけでミーティングを重ねるのではなく、子ども、学生、若い世代の考えやニーズを拾っていく取組み、対話が大切だと思います。
- そうした中で、どんなイベントをしていった方がよいかなども見えて来ると思います。また、このような積み重ねにより、「四倉のまちでイベントをやるとこれだけの人が動くなら、ここでお店やってみても」と思える人も現れるのではないのでしょうか。
- そのようなお店が出来て、歩いて買い物が出来ると、公共交通縮小の問題もありますので、高齢者にも優しい街になるような展望を描いていけると思います。
- 商店街で一番大切なのは新陳代謝です。古いお店が何もせずにいると、当時は良かったかもしれませんが、次の世代は来なくなってしまいます。
- 会津若松の事例ですが、市役所通り商店街では、新しいお店、特に飲食店がどんどん出店している状況です。四倉と同じようなことですが、会津若松市では市役所の庁舎を建替えており、再来年には、新しい庁舎に職員が務めることになります。
- そのため、商店街で新しいお店を出そうという機運が生まれていることが一つの要因です。もう一つの要因は、この商店街では様々な活動をしているということです。前回ご紹介したナイトバルや駄菓子カフェ、小地藏探しもこの商店街の取組みです。人を呼ぶような取組みを定期的に行っていることで、外からは活気がある街と思われる、商売をしたい人の目に止まるからです。一緒に街を盛り上げていけそうと思え

る街であることは重要です。

- まちなかでも海でもいいと思いますが、あの地域は元気があるなと外から見えると、民間による自発的な開発を呼び込めると思います。

⇒ 駅裏の事業は、6、7年間程度はかかるので、それが出来てから動くという考えはあろうかと思いますが、本当にその期間、まちでは何もしないでいるのか、ということとは問われると思います。

⇒ 工場跡地には小中学校や公民館などが建設され、そこには多くの児童が通い、保護者も来ますし、海は賑わっています。そういった中で、まちなかにどんな人に住んでもらうのか、買物をしてもらうのか、という時に、視察された黒磯のように、まちなかのパン屋さんはどうしていったらいいんだろう、とも考えられます。

⇒ 私が考えたアイデアをお話します。サンローランさんのパンは昔ながらの魅力があると思います。このようなパンや地元の菓子店のお菓子を、例えば店舗の一部や空き店舗を活用して、そこに集めて、昼は高齢者が集っていたり、駄菓子カフェを併設して、子どもとの交流をつくったりすることが考えられます。

また、地域の伝説でもあるカメをもじって、カメのパンやお菓子をつくったり、カメのぬいぐるみやモニュメントをお店に設置して、まちを繋いでいったりすることも考えられるのではないのでしょうか。

⇒ 駅裏が出来てから動くことは確かですが、それを見越して、その期間に何をしていくとよいのかとうところも一緒に考えていければと思います。

⇒ もう一つのアイデアをお話します。四倉地区にはお店はありますので、テイクアウトして、空き地に持ち寄って、街全体がフードコートみたいになるとよいのではないかと考えました。

⇒ 午前中は若い世代（子育て世代）がお菓子を持ち寄ってお話したり、夕方になったら子供たちの遊び場になったり、夜になるとバーのような感じとか映画を流したりすると、お金をかけずともスモールスタートが出来るのではないのでしょうか。

まちづくりプレイヤー様

○ 自分がお店を出したいところはあるか、という事業者目線で四倉のまちを歩きました。残念ながら、現時点でまちなかには見つけれませんでした。

○ 唯一見つけたのは、防潮堤の上。駐車場に車を止めて登った上、東屋があるところが四倉では一番ポテンシャルがある場所だと感じました。許可が出るのであれば、投資してでもやりたいと思える場所でした。

○ 今、四倉で可能性があるのは、海の見える場所だと思います。海沿いの町としての

ポテンシャルを生かしきれていないのが残念です。給排水の問題などがありますが、防潮堤の上いくつかのお店があれば魅力的だし投資したいと思います。

- 次に、子育て、親としての立場ですが、四倉には、子供を遊ばせることができる広場、公園が無いと思いました。私の妹もこのあたりに住んでいますが、子供を遊ばせたい時には、いわき公園や 21 世紀の森公園などへ車で連れていくとのことでした。
- 例えば豊間や薄磯の海沿いの公園のように、防潮堤から公園や海側に下がる滑り台などがあるなど、サイクリングやランニングの場だけではなく、子供たちのアスレチックとなるような広場空間となるとよいと思います。
- 海を生かして、付加価値を上げて投資していくことが、四倉の発展に繋がる可能性だと思いました。

まちづくり団体関係者様

- 私も四倉町の魅力は海だと思います。防潮堤で見えなくなりましたが、防潮堤に登ると今までよりも素敵な海を見ることが出来ます。残念ながら、防潮堤の上にモニュメント等の工作物をつくろうとしたところ、法令上、難しいということと言われ実現できなかった経緯があります。工場跡地、商店街という話がありますが、やはり四倉といえば海ですので、市のバックアップのもと、海を生かした取組みも進められればと思います
 - 防災緑地はいわき建設事務所、防潮堤は小名浜港湾建設事務所の管轄ですが、防潮堤にキッチンカーを並べて、イベントをやったことはあります。ただ、場所としては一番高いところではなく、踊り場のようなところです。
- ⇒ 防潮堤のところでお店を、という話がありましたが、どの程度、頻度でやりたいと考えますか。

まちづくりプレイヤー様

- 最初はイベントから始めるのかもしれませんが、やるなら（投資するなら）常設となるでしょう。キッチンカーではイベントにとどまってしまう。トレーラーハウスとかで仮止めで常設してあるイメージもありではないでしょうか。
- 花火大会等のイベントだけではなく、日常的な海をみながらコーヒーを飲んだり、お食事をしたりする。その売り上げの一部をヤシの木に投資していく、海をきれいにする取組みに使われるといった流れになるとよいと思います。

まちづくり団体関係者様

- 飲食の話もありますが、やはり、人が集まってくる機能として、先ほどの公園という話もセットがいいですね。

まちづくりプレイヤー様

○ 駐車場もあるし、海が、子供たちが遊べる公園機能を担っていけるとよいと思います。

⇒ 皆さんの話を聞いていますと、四倉は海が魅力なので、それを生かして公園機能や集客機能を高めていけば、おのずと地元の人も、外からの人も訪れ、それが段々とまちなかへも波及していく可能性があるのではないか、ということでしょうか。

区長会関係者様

○ 四倉町では、子供たちと高齢者との繋がり、接点が中々ないのが現実です。その視点でイベントを実施したり、じゃんがらとか傘踊りとか、そんなイベント、舞台づくりを、定期的に月に数回行っていくことを行事として取り入れていけば、「四倉町って結構賑やかだよな」となって来ると思います。

○ この接点づくりを、どうやってつくるのか、どこでやっていくのか。きちんと詰めていけば、四倉町には協力してくれる人はたくさんいると思います。

⇒ 皆さん、海の話になるとアイデアがたくさん出てきますが、まちなかとなると、中々具体的なアイデアを出すのは難しいところがあるようです。

工場跡地全体の土地利用が明確になって、海側も活性化しながら、その時にまちなかをどうしていくのかについては、段階的に取組んでいくという形が現実的ということでしょうか。

まちづくり団体関係者様

○ 「まちなかで何かやらないと」といって、仮に何か建てて赤字になってはどうしようもありませんよね。

⇒ 先ほどお話があった、高齢者と子供たちとのふれあえるようなイベントや行事。まちなかも何か、活気がある、活気が見えるような形をとっていくことが考えられます。

まちづくり団体関係者様

○ 過去に「ギュッと四倉」というものを企画しました。箱ものは行政の支援を受けたと考えていましたが、四倉中のスイーツや飲食を一つの場所にメニューを置いておいて、注文するとお店からその場所へ運んで来てくれて楽しめる、居場所となる取り組みです。一つの店舗で売るのには限界があるので、2号店という位置付けとして考えられないかということでした。

区長会関係者様

○ いわきはバンド、演奏の活動が盛んですので、四倉の町では、例えば月2回、その

ような場を提供しますよ、となれば、人も集められるではないでしょうか。

まちづくり団体関係者様

- 実際に四倉でやりたいという方がいて、その方が望んだのが海でした。ただ、色々課題があって実現はできなかったです。まちなかでも、披露する場所を提供できるのであれば、来てくれるでしょう。

まちづくり団体関係者様

- 20 年ほど前に、商工会が商店街にベンチを配ったことがありました。それを今からでも出した方がよいと思います。昔は、あまり気にしていませんでしたが、高齢者が多くなっていますので、店先の空きスペースに置くだけでも違うと思います。小さな取り組みですが、最初、みんなでやるときにイベントをやるなど、スモールスタートでもよいと思います。

⇒ 沿道のお店も協力してもらえれば、パンやお菓子を買って、おしゃべりしながら、そこで食べられたりしますよね。

⇒ そろそろ、お時間になってきましたが、阿部さんから何かアドバイス等ありますか。

- 海はもとより、まちなかもどうしていくのかということでしたが、一番は「皆さんがどのようなまちをつくっていきたいか」ということが大切です。海に注力しつつ、工場跡地の全体像が見えてくる中で、工場跡地と海を、まちなかはどう繋いでいくのか、を考え行動していければよいのかなと思いました。

⇒ 本ワーキンググループは、商店街の賑わいづくりを検討する場として、今年度は3回の会議を開催してきました。

⇒ 工場跡地の全体像などが見えない中では、まちなかに本格的に投資することは難しいというお話でした。ただ、そんな中でも、将来を見据えて、スモールスタートを切っていくことが大切ということでした。

アイデアは出ていますので、それを、あまりお金をかけずに取組んでいくことが短期的な施策となりそうです。

⇒ 商店会さんだけでは難しいですので、それを支える商工会もあります。また、市民会議さん、行政等が連携し、継続して考え行動していくことが重要だと思いました。

⇒ 今年度末に策定する基本計画には、これまでワーキンググループで出たアイデアをとりまとめるとともに、まちなかエリアを維持・発展させていくためには、工場跡地の全体像や海の賑わいを見据えながら進めていくという「考え方」を記載していきたいと考えています。

⇒ 今後、具体的に検討し行動する際には、地域振興担当員や支援策の所管部署である都市計画課や地域振興課などが行政の窓口となりながら、このメンバーが連携して取組んでいければと思います。